

High School Human Rights

ヒューマン ライツ



(高校人権教育通信 第3号) 平成24年(2012年)10月19日

発行 長野県教育委員会教学指導課心の支援室

発行人 澤井 淳

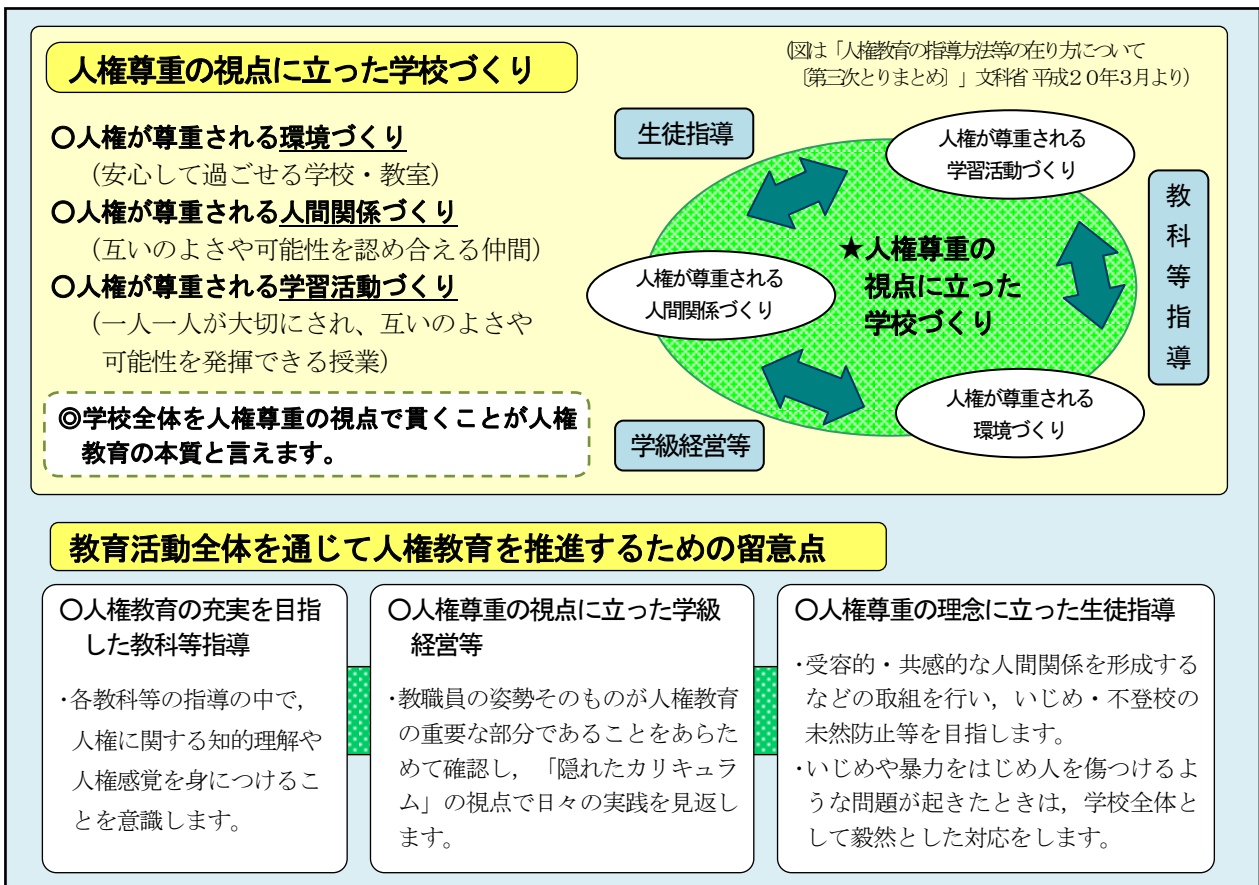
1 はじめに

いじめに対する学校の対応が全国的な社会問題になっています。いじめは、「どの子にも、どの学校にも起こり得る」、「本人がいじめられたと感じれば、それはいじめである」という基本認識のもと、被害生徒の気持ちに寄り添った支援、加害生徒への毅然とした指導が求められています。

そこで、本通信では、いじめを許さない、いじめを見逃さない教師であるための基本について、「隠れたカリキュラム」という視点から、取組例を紹介しながら考えてみたいと思います。

2 もう一度確認！「人権教育はすべての教育の基本」 私たちの「指導のベース」です！

人権教育を進めていく上での大きな拠り所のひとつである「人権教育推進プラン」（長野県教育委員会 平成23年3月）の〈学校教育編概要版〉には、「教育活動全体を通じた人権教育の推進」の重要性について、下記のようにまとめられています。



“隠れたカリキュラム”とは、「教育する側が意図する・しないに関わらず、学校生活を営む中で、児童生徒自らが学び取っていく全ての事柄」を指します（「第三次とりまとめ」より）。教師の言葉遣いや日々のさりげない仕草や態度は、この“隠れたカリキュラム”に大きな影響を与える要素です。私たち教師自身が、人権感覚を錆びつかせないよう磨き続け、常に「人権のアンテナ」を高くしておくことが、生徒たちにとって良い学びとなる“隠れたカリキュラム”につながります。

しっかりやれ
バカ！



3 日頃から、「人権のアンテナ」を高くする努力を！

「人権のアンテナ」を高くする努力を日々積み重ねていくことが、教室に、そして学校に恒常的に人権教育が浸透していく秘訣です。そこで、このアンテナを高くする簡単な方法をふたつ紹介します。

〔方法その1〕

- ① 休み時間など教室や廊下で、生徒同士の会話に耳をそば立てる。
- ② 生徒の口から次のような「言葉」が出ていないか、チェックしながら聞いてみる。「死ね！」 「バカ！」 「アホか！」 「デブ」
「キモい」 「最悪！」 「サイテー」 「うざい」
- ③ これらの言葉が、生徒の心にどのように響いているか想像してみる。

うざっ

キモッ



ただこれだけのことで、普段より注意深く「使ってはいけない言葉」として聞いてみると、教師側の感じ方が変わってきます。この感じ方が「人権のアンテナ」です。

これらの「言葉」は、ある学校で行ったアンケートの回答に出てきたものです。質問は、「友達から言われた言葉で、いやだなと感じたり心が傷ついた言葉は何ですか」というものです。生徒同士の会話、そこで使われる言葉を意識して気にしてみることが、「人権のアンテナ」を高くする大きなポイントです。

〔方法その2〕

- ① 生徒に声がけをしたり会話をする中で、次の「言葉」を使ったときどのような反応を示すか、その返答、表情や雰囲気をしっかり感じ取る。
「バカだな！ もっとしっかりやらなきゃダメじゃないか！」（少し語気を強く）
- ② 別の機会に、次の「言葉」の場合の反応、表情や雰囲気をしっかり感じ取る。
「よくがんばったね。さすが！ そこが君のいいところだよ。」
- ③ 休み時間、部活指導、個人面談など、さまざまな場面で試してみる。

私たち教師は、生徒に対して使う言葉をどれだけ意識しているのでしょうか。教師の言葉、たとえそれが一言でも心が傷ついたり、逆にうれしかったり励まされたり、生徒は教師の言葉に敏感です。毎日の指導の中で、「使ってはいけない言葉」と「使うと教育効果が上がる言葉」をもう一度整理してみることで、「人権のアンテナ」はさらに磨かれていきます。

このアンケートでは次のような質問もしています。友人や家族との日常のコミュニケーションを振り返ることで、自他の人権の大切さを考えるきっかけとなります。

（質問）あなたは、こういう言葉を使えば相手がいやな思いをするかもしれない、傷つくかもしれないと想像したことがありますか。

- A いつも想像して言葉を使っている。相手を傷つけないように心がけている。
- B 想像したことはあるが、いつもそうしているわけではない。
- C 想像したことがない。会話の中では思ったことをそのまましゃべっている。

（質問）あなたは、自分の態度や行動によって、相手がいやな思いをするかもしれない、傷つくかもしれないと想像したことがありますか。

- A いつも想像して、相手を傷つけないように考えて行動している。
- B 想像したことはあるが、いつもそうしているわけではない。
- C 想像したことがない。思った通りに行動し、感情が態度に出ることがある。

生徒同士の日常のコミュニケーションの在り方も、“隠れたカリキュラム”を構成する大事な要素として、私たちは「アンテナ」を常に高くしておきたいものです。

※本号で紹介した「人権教育推進プラン」及び「人権教育推進プラン（学校教育編概要版）」は、県教委ホームページよりダウンロードできます。（<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiiku/kyougaku/jinken44.htm>）

朝夕は冷え込むようになってきました。先生方、どうぞご自愛ください。
次号は、12月発行を予定しています。ご感想・ご要望をお寄せください。

